

連帯はばたき

連帯ユニオン
関西ゼネラル支部
宣伝部

第52号
2022. 12.

明るく・楽しく・元気に活動し、産業別労働運動を確立しよう！

関西ゼネラル支部第8回定期大会

2023年度の運動方針と執行部体制を確立

11月20日学働館4Fホールで、第8回定期大会を開催しました。開会に先立つインターナショナルの合唱で、放送の音量不足というハプニングが発生し少しもたつきましたが、参会者の大きな歌声でカバーして大会が始まりました。大会議長にK梱包分会のA代議員の他、大会役員を選出しました。資格審査委員から、委任を含め代議員70名の参加が報告され、A議長が大会成立を宣言しました。

挨拶に立った執行委員長は、権力弾圧にふれて連帯労組の各支部が組織拡大を通じて強力な労働運動を作っていくことこそが最大の反撃となる。この大会で活発な議論をもって今後一年間の運動方針を確立するよう求めました。

来賓で組合員でもある大石あきこ衆議院議員は、一部国会議員による関生支部への攻撃を厳しく批判し、社会を大きく変えるのは労働者の運動によるしかないとしてゼネラル支部の奮闘を促しました。また、自身は国会議員として現場の労働者の声を聴き、その意見を最大限国会に反映させるために全力を尽くすと表明されました。

続けて生コン支部書記長、トラック支部執行委員長、ゼネラル支部の上位組織の近畿地本書記長、中央本部執行委員から挨拶を受けました。最後に家族クラブ「あさがお」会長から、「あさがお」の歩みを振り返りこれからはゼネラル支部、トラック支部にも会員を拡大して一層強固で大きな組合員家族の結びつきで組合破壊の弾圧に立ち向かい組合の発展に寄与したい、会員拡大を呼びかけました。

議事は、事前に組合員に総括案、運動方針案を示しており、S化学分会、T興業労組、T分会、F分会、N学園分会、Jリサイクル分会、K梱包分会、E分会、S建設分会、N分会の代議員からこの一年間の職場活動の成果、教訓や闘争報告がなされ、原案通り運動方針を採択しました。今期の運動方針の特徴は、「自律的な分会活動」を掲げ一人分会から複数名分会を目指します。そのために、①就業規則類、労使協定、賃金明細等の検討を通して職場状況を熟知し、改善

分会報告をする分会員



を求めて分会活動を行い、②分会の動きを職場に発信して未組合員へ働きかけを継続し、職場で発言力、存在感を強化する職場活動を展開します。相手（会社）を知り、紛争を未然に防ぎ、そして職場環境の改善を図ります。

続けて、決算、監査報告と予算を承認しました。スト権批准投票と役員選挙を行い、大会宣言を採択しました。投票結果をB、C選挙管理委員が報告、年間ストライキ権を確立し、新執行部はJ病院闘争、M闘争をリードし、パワフルに労働組合を対外的に発信してきたC執行委員が退任し、新たに二人執行委員を加え、運動の推進役を担うことになりました。

最後に新執行部が登壇し、退任したC執行委員の発声で団結ガンバローを三唱して大会を終えました。
(執行委員長)

執行部紹介

執行委員長

労働運動全体が力を失う中で、先鋭的な活動を展開してきた関生支部が大弾圧を受けています。大変きびしい状況の中、関生支部の組合員は一丸となって反撃しています。関西ゼネラル支部も連帯労組の一員として支援・行動します。関生支部はもちろん、連帯労組の各支部が組織拡大を通じて強力な労働運動を作っていくことこそが最大の反撃です。関西ゼネラル支部は関生支部から独立して8年、関西ユニオンと統合して4年になります。組合員倍増という目標を立てましたが、いまだ達成できていません。職場活動の活発化と拠点分会づくりを通じて組織拡大に全力で取り組みます。

副執行委員長O

昨年度で書記長を退任し、副執行委員長に信任されました。今年度は、書記長業務の引継ぎを完了した上で、若手中心の組合運営をバックアップしていきたいと考えています。関西ゼネラル支部の長期目標は産業別労働運動を展開すること、当面の目標は職場活動の活発な展開を基礎に組織拡大を図ることです。目標を実現できていない中での世代交代となりましたが、引き続き目標達成のために頑張りたいと思います。

副執行委員長S

私たちは、日々職場に出勤します。職場が組合活動のホームグラウンドです。「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」のとおり、会社の業績から職場の人間関係まで丁寧に分析し、分会方針を決めて実行する。職場に分会の動きと会社の反応を知らせて、職場で労働組合の発言権を大きくしていく。そんな職場に根をおろした組合活動で、働きやすい職場、働きがいのある職場に作り変えていきましょう。職場活動、分会活動の活性化に尽力します。

書記長

定期大会で書記長に選任されました。書記長の仕事は、運動方針に基づいて執行委員会が具体化した活動計画を強力に推し進めることです。組織全体に目を配り、組合員を一つにまとめ、実行していくことです。定期大会では職場活動の活性化を最大の方針として採択しました。この方針を実行するため、各分会と話し合いをもち、分会の年間目標を立て、分会と一緒に職場活動に取り組んでいきます。こうした取り組みを通じて、拠点となる分会がたくさん出てきてほしいと思い

ます。そして、拠点分会が組合全体を引っ張っていくという形にしていきたいと思います。役員中心の活動ではなく、組合員中心の活動にしていくため、一緒に頑張りましょう！

財政部長

財政部長に再任して頂き有り難うございます。2022年6月の労働力調査によると、非正規雇用は増加しており、雇用者の総数6,048万人のうち短時間労働者と考えられるアルバイト・パート労働者の非正規雇用の総数は1,466万人と、およそ4分の1を占めています。正社員も、長時間労働の割には、多くの場合は年収が300～400万円代で働かされています。ウクライナ情勢の影響もあり、低賃金のなか物価上昇によって働く人々の生活は確実に苦しくなっています。また、フリーランス、請負、ウーバーイーツなど労働法制の保護の対象でない働き方が増えてきている問題もあります。組合は、労働者の労働条件向上を図ることや雇用形態間の格差是正により一層力を注がなくてはならないと思います。組合の財政の安定化に気を配りながら、私自身も今期は、微力ながら特に組合員の労働条件向上の手助けができるように、組合員の相談、団交、春闘等に力を入れていきます。また、組合員同士の交流が図れるような企画を提案、実行していきます。

執行委員 A

2年前に友人組合員の強い勧めで組合員となり、韓国サンケン電気偽装解散問題や関生への弾圧問題等の街宣やデモ、争議分会の団体交渉、裁判の傍聴等々、この一年あまりの間に色々と参加して来ました。そして、この11月に一人分会ですが職場で組合を立ち上げ、処遇改善手当をはじめ労働条件の改善に取り組んでいくところです。また、執行役員として組合員の職場活動にもかかわっていくことになりました。まだまだ力不足を感じつつ、諸先輩方のご協力を頂きながら日々経験を積んでいく所存です。

執行委員 B

執行委員になりました川口分会所属のBです。労働運動の勉強をしたいと考え、今年(2022年)ゼネラル支部に加入しました。労働者が職場で労働者としての当たり前の権利を行使して労使関係を築いていくことは、個別労働者のみならず、社会的な力にもなり、今の時代ではますます原則的な労働運動が大切だと考えております。まだまだ未熟ですが、先輩方に学びつつ頑張っていきます。よろしくお願いします。

執行委員 C

この度、執行委員に再任されましたCです。前期には労働相談の応対や団体交渉の担当を経験させていただき、私の職場で社内労組を立ち上げる事ができました。今期は更に自分自身の役員としてのスキルアップを目標とすると共に、ゼネラル支部の組織拡大に繋がる活動また他の組合員の職場活動の力にもなれるよう微力ながら尽力していこうと思いますので、一年間よろしくお願い致します。



高槻生コン分会つぶし策動粉碎！

関生魂に学ぶ 12.3 分会激励・交流会

大阪府高槻市成合にある『ティーワイケイ高槻生コン』の工場施設は既にほとんど解体され、敷地内にはプレハブ2棟しか残されていません。関生支部の組合員が交代で寝泊まりし、この場所を固守しています。12月3日、ゼネラル支部執行委員会のメンバーは、夕食を用意して分会事務所を訪れ、交流を深めました。



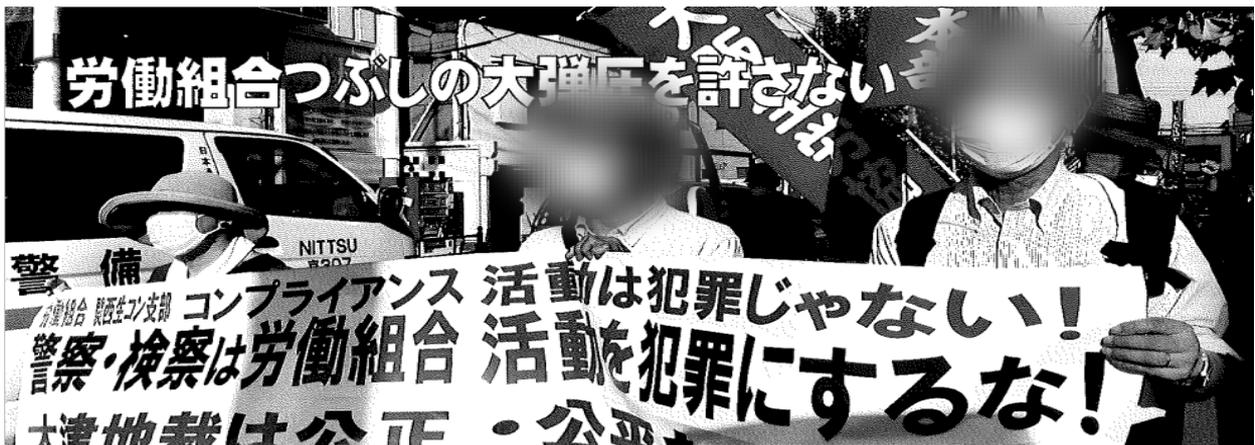
ティーワイケイ高槻生コン

は、関西生コン支部が管理・運営してきた生コン企業です。関生支部は、1998年倒産した生コン社に組合員の雇用の確保を求めて闘争し、組合がその工場を譲り受け、そのような体制が確立しました。これは労働者自身の手で会社を運営するという『労働者自主管理』を実現した、関生労働運動の大きな成果です。ところが今年6月21日、名目上の代表取締役である門田盛男が、組合員に何の説明もなく、京南生コン社を経営する大山正芳に会社を売却しました。大山は、2018年以降続く関生大弾圧を主導する『大阪広域生コンクリート協同組合』の副理事長です。

プレハブは1階が休憩室、2階が組合事務所となっており、組合員はそこに常駐を続けていました。ところが翌7月に広域協は更なる強引な手段に出ます。大山は職場の敷地内に重機を持ち込み、強引に工場施設そのものを解体し始めたのです。生コン支部の拠点分会を潰すことはもとより、その目的が組合の経済基盤を絶つことにあることは言うまでもありません。経営者たちが恐れていることは、労働組合の自立、ひいては労働者が経営者から自立することです。こうして組合名義の「試験室」と組合事務所の2棟だけを残し、他はすべて取り壊されてしまいました。

また、乱暴で強引な工場設備解体は、予想外の環境問題を引き起こしました。セメントは強アルカリです。サイロ内のセメントを強引に抜いたことで工場周辺一帯にセメントの噴煙が立ち籠り、さらにそのセメントを放置した為に漂白剤を遥かに超える濃度のアルカリ汚染水 (pH 13、14) を水路に垂れ流されてしまいました。また、工場で使用していた放射性物質を含む水量計も解体作業に巻き込まれ、その場で破壊されてしまったのです。住民に健康不安をもたらす環境破壊を引き起こしたことで、市役所や市議会でも問題になっています。

職を奪われ、活動を妨害され、苦しい闘いを続けている中であっても分会は、私たちが迎え入れ、分会の来歴と現状について詳しく話をしてくれました。関西ゼネラル支部は、職場占拠、泊込み闘争の経験が乏しいです。こうした交流を通じ、他支部の闘い方を吸収し、関西ゼネラル支部の闘いに生かしていく必要があるでしょう。 (書記長)



2023 元旦行動

1月1日(日) 10時 大阪府警本部

腕章持参、ゼネラル支部の旗の下に集合

組合員への交通費支給について

11月に開催した定期大会において、「組合機関紙で参加呼びかけを行っている行動等について、役員の一部が参加していない場合、その役員に支給する予定の交通費を、参加した組合員の交通費に補填できないか」との提案がありました。そして、執行部は、この提案について執行委員会で検討の上、結論を機関紙に掲載することを約束しました。12月4日に開催した執行委員会でこれについて検討しましたので、以下、結論とその理由をお知らせします。

《結論》

組合機関紙で参加呼びかけを行っている行動等について、組合員への交通費支給は、従前どおり上限を500円とする実費支給とする。なお、機関紙のお知らせ欄を改定して、①＝全額支給、②＝上限を500円とする実費支給、③＝交通費を支給しないと記載し明確にわかるようにする。また、請求漏れがないように、交通費支給の場合には、担当役員が個票を持参し、組合員に渡すようにする。

《理由》

参加呼びかけを行っている行動等について、役員は執行委員会で誰が参加するか決定し、その決定に従って義務的に参加しています。決定したのに参加しなければ責任を問われます。参加呼びかけを行っている行動は、連帯ユニオン全体として取り組んでいる行動ですので、役員それぞれの個人的関心とは関係ありません。そのため、交通費も全額支給しています。

一方、組合員には自発的参加を呼び掛けていますが、参加は義務ではありません。参加しなくても責任を問われることはありません。そのため、上限を500円とする実費支給ということにしています。組合員についても、義務的に参加していただいている定期大会及び支部委員会については、交通費全額支給にしております。